

国語科学習指導案

八尾市立八尾小学校

指導者 岩本 朋子

1. 日 時 令和5年11月1日 第5時限 14:00～14:45
2. 場 所 第1学年4組教室
3. 学 年 ・ 組 第1学年4組(28名)
4. 単 元 名 「せつめいする文しょうをよもう」「せつめいする文しょうをかこう」
教材文:「じどう車くらべ」「じどう車ずかんをつくろう」(光村図書)

5. 単 元 目 標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・ 事柄の順序など 情報と情報との 関係について理 解することができる。【(2)ア】	・ 事柄の順序などを考えながら、内容の大 体を捉えることができる。 【C 読むこと(1)ア】 ・ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出 すことができる。【C 読むこと(1)ウ】 ・ 事柄の順序に沿って簡単な構成を考える ことができる。【B 書くこと(1)イ】 ・ 文章の内容と自分の体験とを結び付け て、感想をもつことができる。 【C 読むこと(1)オ】	・ 言葉がもつよさを感じると ともに、楽しんで読書をし、 国語を大切にして、思いや 考えを伝え合おうとする。

6. 本単元で取り組む言語活動

事物の仕組みを説明した文章を読み、順序を考えながら「じどう車ずかん」を作る。

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①事柄の順序など 情報と情報との 関係について理 解している。 【(2)ア】	①「読むこと」において、事柄の順序などを 考えながら、内容の大体を捉えている。 【C 読むこと(1)ア】 ②「読むこと」において、文章の中の重要な 語や文を考えて選び出している。 【C 読むこと(1)ウ】 ③「書くこと」において、事柄の順序に沿っ て簡単な構成を考えている。 【B 書くこと(1)イ】 ④「読むこと」において、文章の内容と自分 の体験とを結び付けて、感想をもってい る。【C 読むこと(1)オ】	・ 言葉がもつよさを感じると ともに、楽しんで読書をし、 国語を大切にして、思いや 考えを伝え合おうとしてい る。

8. 指導にあたって

(1) 児童観

本学級の児童は、1学期に「くちばし」の教材で説明的な文章の構造を捉える学習を行っている。「くちばし」では、「問い」と「答え」を捉えて読むことに気づき、事柄の順序を考えながら内容の大体を捉える学習をした。また言語活動では、「くちばしクイズをつくろう」と設定し、教科書には載っていない四つの鳥のくちばしから一つ選び、「問い」と「答え」の関係を意識しながら、自分でくちばしクイズをつくって書く活動を行った。最後には、グループで「くちばしクイズ大会」を開き、クイズを出す人と答える人を交代する活動を楽しむことができた。文字を書くことにはかなり慣れてきているものの、クイズを作るため文章の中にかくされた「問い」と「答え」に気づくことが一人では困難な児童も中には見られた。

また、2学期の「うみのかくれんぼ」の教材では、文末表現を手がかりに「問い」や「答え」を見つけたり、段落を比べ各事例の順序を考えたりしながら内容の大体を捉える学習を行った。書いてある事柄の関係を正しく捉えることや文章中の大事な言葉や文を捉えて必要な情報を取捨選択する支援として、図や動画を利用した。「かくれんぼ名人」を考える際に必要な比較がしやすいように、表にまとめて視覚化するなどの工夫をすることで理解につなげてきた。更に『『かくれんぼ名人』を探して伝えよう』という言語活動を設定し、三つの事例を比較することによって、どのような点で「かくれんぼ名人」なのかを根拠をもとに理由を述べることができるように支援した。

これまでの交流場面においては、活発に意見交流を行うことができる児童がいる反面、意見を求められても何をどう答えていいのか戸惑ってしまい発言できない児童や、誰かが答えてくれることで他人任せになってしまう児童も存在する。また、発表の場面でも自分の思いをしっかりと発言できる児童もいれば、自信がなかったり、恥ずかしかったりなど全体の前ではなかなか発言できない児童も少なくない。そのため、まずは二人で自由に意見を話したり聞いたりする時間を取り、更にグループで意見を交流することで自信を持たせることに重点を置いてきた。このような活動を繰り返すことで自信をもって自分の思いを伝えられるようにしていきたい。

本単元の学習では、自分たちで順序の操作することで、まるで筆者になったような気持ちを体験してもらいたい。そうすることで、主体的に説明文の学習に取り組み、興味の幅が広がることで、考える力につながることを期待したい。

(2) 教材観

1年上巻「うみの かくれんぼ」と同様、「問い+答え+答え+答え」という列挙型の構成になっている説明文である。「どんな仕事をするのか」、そのために「どんなつくりになっているのか」という具合に、問いが二つあるため、「しごと」と「つくり」を二つの段落に分けて書かれている明確な構成である。さらに、「それぞれの じどう車は、どんな しごとを して いますか。」「その ために、どんな つくり に なって いますか。」という二つの問いの文に対して、三つの事例を挙げながら説明していく文章である。三つの事例は身近なものから順に挙げられており、説明の順にも「しごと」→「つくり」という一定の型が見られる。

既習の「くちばし」や「うみの かくれんぼ」と比べて特徴的なのは、二つの問いの間に因果関係が見られる点である。どの事例においても「しごと」に合わせた「つくり」が説明されている。

答えの文では、「しごと」と「つくり」を「そのために」という言葉がつなげている。「しごと」は1文で、「つくり」は2文で説明されている。「つくり」の説明の1文目には、なぜその「つくり」にする必要があったのか、詳しくは説明されていないが、2文目には、多少その「つくり」にした意図が説明されている。説明されていない部分に関しては、児童に考えさせることで、理解が深まることが期待できる。

また、「しごと」「うで」「あし」など、自動車を擬人化した説明が複数見られ、文章の下部にはそれぞれの自動車の挿絵がある。読み手に理解してもらおうという書き手の説明の工夫であることを捉えさせていきたい。

「せつめいする文しょうをかこう　じどう車ずかんをつくろう」においても、自動車は多種多様であり、多くの児童にとって興味をもちやすい題材といえる。また、三つの事例で、「しごと」と「つくり」に着目して学習を進めていくので、「しごと」と「つくり」に着目して情報を集め、構成を考えることにも抵抗が少ないと思われる。教材文には、挿絵や作例もあり、学習の見通しや目標がもちやすい。P34には「しごと」と「つくり」を整理する例がある。図鑑や絵本などは、「しごと」と「つくり」ごとに記述があるわけではないので、取り出した情報をどちらに書くのかを考え、どれとどれを記述するのか判断する際に活用できる。

単元の最初から、単元の終わりには自分の「じどう車ずかん」を作るということを念頭に置いて学習を進めていくことによって、事例の順序・説明の順序・因果関係など、順序立てて情報を整理して書くという書き手の立場に立った書き方が自然と鍛えられる。そして、今後、説明する文章を書く際に、読み手に分かりやすく伝えるためのこれらの工夫や技法を活かすことにつながる。

(3)指導観

第1次では、子どもたちに興味を持たせるため「じどう車くらべ」で紹介されている事例の自動車をスリーヒントクイズにして子どもたちに考えさせる。大体の児童が自動車の「しごと」については、イメージを持っていることが予想できるものの、「つくり」については曖昧な知識の児童もいると考えられる。教材文の初読後には、「つくり」も紹介されていたことを確かめ、自動車ごとに「しごと」と「つくり」をまとめていこうという課題意識をもたせていくようにする。

第2次では、「じどう車くらべ」において、今回初めて問いの文が2文あることに文末表現から気づかせる。答えを正確に捉えるためには、教科書本文の情報から適切な言葉を選び出すことが重要になる。教科書本文にある「しごと」や「そのために」というキーワードに着目し、カードにまとめることで、文章の構成を捉えさせ、問いに対する答えの確認もさせていきたい。また、自動車どうしの「しごと」を比べることで、それぞれの自動車の仕事に応じた「つくり」の違いに気づかせたい。「じどう車ずかんをつくろう」の単元に入る前には、「しごと」にあった「つくり」を見つけることの重要性について理解させるために改めて取り上げたい。例として「はしご車」を取り上げると、車体が赤いことも、はしごが伸びることも「つくり」である。しかし、「災害時に人を救出する」ことを「しごと」とした場合、「つくり」として紹介すべきことはどちらか、選択できる力を育てたい。「ハンドルがあること」や「タイヤがついていること」は、全ての自動車の共通事項であり、「しごと」独自の「つくり」ではないことも合わせてここで確認しておく。

第3次では、「じどう車ずかんをつくろう」の学習のために、まず図書室にある自動車図鑑から

好きな自動車を一つ選び、集めたたくさんの情報からふさわしい情報を取捨選択させて「じどう車カード」を作成する。そして、自分の「じどう車ずかん」を完成させる。また、今回の「ずかんづくり」では、特にどのような順序にすればよいのかを子どもたちそれぞれにより深く考えさせたい。そのために、自分で作成した「じどう車カード」を教材文の自動車の中にただ入れるだけではなく、自分の考えに合った順序も自ら考えて図鑑を完成させる活動を行う。その際、なぜその順序にしたのかという理由も説明させるようにする。その活動から、それぞれの考えによって順序も変わってくることに気づかせたい。順序についての理解が困難な児童がいることも想定し、この活動に入る前に教師が例を示し、実際にカードを動かして視覚的な支援を行う。次に発展的な学習として、グループで「じどう車ずかんをつくる」という活動を設定した。ここでの言語活動では、それぞれ作成した「じどう車カード」をグループで持ち寄り、題名と順序を考えさせながら図鑑作りを行う。一人の意見が優先されることがないように、グループ内のすべての児童が自分の考えた順序を提示する時間を確保する。そのことによって自分の考えを伝えることに苦手意識を持つ児童も必ず参加できるようにさせたい。題名に合った「じどう車ずかん」を作るために「じどう車カード」を並べ替える活動を通して、事例の順序を工夫できることや自分も書き手となる楽しさを知ってほしい。

9. 単元の指導と評価の計画（全 12 時間）◎…記録に残す評価 ○…指導に生かす評価

次	時	主な学習活動	知技	思判表	主体	評価規準・評価方法
1	1	・スリーヒントクイズで登場する自動車を知り、好きな 1 台を選んでその理由を書く。 ・範読を聞き、出てきた自動車や説明されていたことについて確かめる。 ・「じどう車ずかん」を作ることを知る。			○	
2	2	・文章全体の構成を捉える問いの文や、出てきた自動車を確かめ、内容の大体を捉える。		○		・文章全体から、問いの文や出てきた自動車を確かめ、内容の大体を捉えている。 【思・判・表①】〈ノート〉
	3	・それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」を読み取り、カードにまとめる。	○	○	○	・それぞれの自動車の「しごと」に対する「つくり」を理解している。【知・技①】 〈行動観察・カード〉
	4		○	○	○	・構成を捉えてカードに書いている。【思・判・表③】 〈行動観察・ノート〉
	5		◎	○	○	

	6	・それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」を比較し、共通点や相違点・差異点を見つける。		○		
	7	・はしご車の「しごと」と「つくり」を考え、ノートにまとめる。	◎	◎	○	・「しごと」と「つくり」の関係を理解し、自分の言葉でカードを書いている。 【知・技①】 ・選んだ自動車の「しごと」と「つくり」に合った情報を探したり、選んだりしている。 【思・判・表②】 〈行動観察・ノート〉
3	8	・本の中から自分たちの自動車を1台ずつ選ぶ。			○	
	9	・自分の自動車の「しごと」と「つくり」をカードにまとめる。	○	○		
	10	・事例の順序について考え、「じどう車ずかん」を作る。		◎		・教科書の筆者になるという体験を通して、構成の意図を考えている。 【思・判・表③】 〈行動観察〉
	11	・グループで「じどう車ずかん」を作る。【本時】		◎		・文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。【思・判・表④】 〈ノート〉
	12	・友だちと「じどう車ずかん」の交流をし、感想を伝え合う。			◎	・図鑑を作るために、その題名とカードの順序を考えている。【思・判・表④】 〈行動観察〉

10. 本時の展開(11/12 時間目)

(1) 本時の目標

- ・図鑑を作るために、その題名とカードの順序を考えことができる。【思考・判断・表現④】

(2) 本時の評価規準

おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)への支援
図鑑の題名を考えたり、カードの順序を操作したりしている。【思考・判断・表現④】 〈行動観察〉	・グループ内のすべての児童が自分の考えた順序を提示する時間を確保する。 ・友だちと同じ考えがないかグループで確認するよう促す。

(3) 展開

主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1. 前時の復習をする。	・ 本文の事例の順序について復習する。	
2. 本時のめあてを確認する。		
グループでじどう車ずかんをつくろう。		
3. グループで考える。 （1）題名を考える。 （2）順序と理由を考える。	・ グループで出し合った自動車を自分たちが考えた題名に合わせて並べ替えさせる。	思考・判断・表現④ （行動観察） 【記録に残す評価】
4. 全体で交流する。	・ 理由とともに発表させる。	
5. 振り返りを書く。	・ 自分も書き手としてカードを並べ替えることができる楽しさを共有する。	